

関西みつわ会

会費納入にご協力頂き有難うございました！！

支部会費納入 99%達成

年末を迎え何かと忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

さて今年4月、みつわ会関西支部定例総会で支部会費が年会費2,000円と決定、会費制による自主運営1年目となりました。

皆様のご協力によりお陰さまで、会費納入状況は99%（会員総数209名中未納者3人）に達しました。

皆様のご理解に対し厚く御礼申し上げます。

本会費は、関西支部の活動の貴重な原資となり、これを有効に活用し、今後のみつわ会の更なる発展の礎と致します。

関西支部は、皆様の積極的なご協力により活発に活動をしています。

サークル活動などを通じて豊かで楽しい人生を送るひとつの拠点とすることが出来れば幸いです。

また、今回、何らかの事情で支部会費を納入されなかった方々に対する取り扱いは、次回総会で論議することとします。

最後に、みつわ会関西支部の益々の発展と皆様方の健康で平和な正月を迎えられるようお祈り致します。



平成16年 新年会のご案内

恒例の新年会を下記日程にて開催しますので
ご出席いただきますようご案内申し上げます

記

日時： 平成16年1月19日（月）

午後1時30分より

場所：日新火災西日本本部 5F大会議室

みつわ会関西支部

日新火災 西日本本部 駒形本部長あいさつ

この6月27日付けで西日本本部に着任しました駒形でございます。皆さまには早々にご挨拶しなければならぬところでありましたが、まだほんの一部の方のみしかお会いできていなく、本紙面をお借りして改めましてご挨拶申し上げます。どうかよろしくお願いいたします。

私は生まれは北海道の道産子でありまして、北海道と首都圏での仕事が長く、直近では九州本部を担当して来ましたが、この関西地区で仕事をするのは初めてであります。

あっという間に4ヶ月が立ちましたが、こちらは商売のメッカと言いましょるか伝統ある企業はもとより、中小規模の事業者、町の商店街にいたるまで景気が悪いと言いつつも独特の活気に溢れ、阪神優勝の快進撃効果が更に後押ししているのかなと、毎日新鮮な経験をさせていただいております。

会社の方は、東海社との提携を進め「リテールビジネスモデル」を確立させ「中堅損保の旗を守る」べく全役職員一丸となって業務にまい進しております。営業面での最大の課題は何と言っても「企業としての成長力」を示すことであり、その為にも「増収して結果を出す」を合言葉に予算を追求しています。

幸いにも上期は本部全体では+0.3%と僅かではありますが何とか増収を果たすことが出来ました。(全店では-0.2%)



今年度西日本本部の予算の達成を図るには1.3%強の増収を果たさねばなりません。

これをやり遂げて初めてこれまでの流れを変え、諸先輩方が築き上げた顧客・販売網をキチンと守りぬいて成長基盤に乗せたと言えると考えています。

従って今後は上期の勢いをもっともっと高めていかねばならないのですが、ご承知の通り大規模なリストラの影響もあり、控えているわけではありませんが戦力・体制的には非常にきついものがあります。

については皆さまの暖かい応援も頂き、時にはお力もお借りして現役OB一体となって、何としても将来につなげて行きたいと考えていますので、是非お力添えの程よろしく願い申し上げます。

最後に皆さまのますますのご健勝をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

サークル活動の報告

ゴルフ同好会

5/13 (火) 「第16回みつわ会ゴルフコンペ」を開催。参加31名、9組と多数の参加をいただき久しぶりに大いに賑やかにプレーを楽しみました。今回は、小田さんの計らいにより、名門「垂水ゴルフ倶楽部」で、快適なゴルフを満喫しました。今回特筆すべきは、**沖島さんが「ホールインワン」を達成**され、その快挙に皆さんから祝福の拍手が送られました。**栄えある「優勝」は梅田 忠さん**でした。 ベスグロ (77) の

細 川

末広さんが準優勝、3位は地主の小田さんでした。

「第17回みつわ会ゴルフコンペ」は10/21 (火) るり溪ゴルフクラブにて開催されました。参加36名、生憎雨の中のプレーになりましたが、皆さん元気よくゴルフを楽しみました。 **優勝は伊藤孝さん、準優勝小畑さん、3位佐野さん**でした。

新規入会希望者は竹内、細川、中村(隆)、北山までお申し出下さい。



第16回コンペ

← 優勝は梅田忠さん
沖島さんが「ホールインワン」を達成 →



第17回コンペ 優勝は伊藤孝さん

表彰式と懇親会



第17回ゴルフコンペ記念写真

麻雀同好会

麻雀同好会は現在メンバー33名で4ヶ月に1度、麻雀大会を行っております。

今年、第25回麻雀大会（6月25日）では、井上文作さんが優勝されました。麻雀は頭脳を働かせ、指を使うことから老化

吉本

防止に効果があるとされています。興味のある方は気軽にご参加下さい。

新規入会希望者は東村、津田(明)、吉本までお申し出下さい。

歩こう会

今年前半は天候不順でしたが、歩こう会としては幸いに天候に恵まれ4回実施することが出来、ほぼ順調に推移しております。月によっては参加者が若干少ない時もありましたが、登山、森林浴或いは古刹を訪ねるなど全員歩くことを楽しんでおります。新しく参加される方をお待ちしております。

5/10(土)	十三峠／信貴山	6名
6/14(土)	天王山／柳谷観音	7名
7/26(土)	六甲山／布引	9名
9/27(土)	柳生街道／柳生の里	9名

橋本

7/26(土) 六甲山／布引



パソコン同好会

分かりやすい研修マニュアルが完成し、研修時間の3時間半をマンツーマンでたっぷり活動に生かしております。

10月～11月の研修テーマは、年末の年賀状の作成の時期にあわせて、はがきソフト、デジカメの操作、画像の取り込み、



村田

加工などでした。

関西みつわ会の会報の編集・発行もメンバーの皆様の大変な協力により12月初旬には第6号をお届けできる運びになって



おります。

毎月第2火曜日（原則）午後1時半より5時まで、日新火災西日本本部6F会議室で開催しております。年会費1000円。お一人でも多くのご参加を心よりお待ちしております。入会ご希望の方は浦野、村田まで申し込みください。

関西史蹟散策会

みつわ会関西支部に7番目の同好会が誕生しました。

去る7月2日、大阪城内「錦秀」2階で開催された設立総会には賛同会員48名のうち28名の出席を得、席上提示された設立趣意書に沿って、先ず会の名称が『関西史蹟散策会(略称「KSS会」)』と正式に命名され、活動計画としては年4回を目途とする。お世話を願う幹事には、浦野崇司さんに会長を引き受けていただき、事務局長は村田義朗さん、顧問に出野秀彦さん、そして若手幹事に津田明孝さん、中野真太郎



さん、田中修身さん、樋口忠さん、井関通弘、会計には佐藤真千子さんと岡田典子さんに夫々お引き受け頂くことが決まり、一応任期は「ボケ」発覚までということ、又年会費は1000円にしようということで、会のアウトライン(骨格)が和気藹々のうちに決定されました。

活動はもう既に2回の例会が盛大に催されました。更に11月には「永源寺と湖東三山巡り」バスツアーが予定されて27名の参加申し込みを既に受け付けているところです。

これまで2回の例会の様子を簡単にご紹介しますと

井関

◇ 第1回 7月2日(水) テーマ:「古代から近世へのおおさかを探る」(参加28名)
大阪城→(錦秀にて昼食・設立総会)→大阪歴史博物館→難波宮跡まで、朝10時から解散する4時頃までの約6時間、参加者28名、誰一人として脱落する者無く、最後まで広大な大阪城を歩きまわり、広い歴史博物館の中の展示物を熱心に見てまわり、更には難波宮跡の遺構



なども、熱心にガイドの説明に耳を傾けながら見学するなど、本当に皆さん元気に有意義な1日を過ごし、お互い誠に充実した1日でした。

特に午後からは、NHKと共に新設なった大阪歴史博物館の常設展と博物館の学芸員による難波宮跡の見学と説明を受け、遠く7世紀中頃から8世紀、この地が大陸からの文物の受入玄関として大いに賑わっていたことに思いを馳せ皆感動を新たにしました。



大阪城をバックに記念写真

知っているようでも意外に知らなかった大阪城の歴史。今回改めて実際に現場で実物を見、専門家の説明を聞き、皆初めて「そうだったのか」と納得した面持でした。

◇ 第2回 9月18日(木) テーマ:斑鳩の里「三塔いにしへの道」(参加 26名)

JR 法隆寺駅→史跡・中宮寺跡→(三塔遠望)→法起寺→(岡の原・山背大兄皇子墓所)→法輪寺→史跡・三井(窯跡・井戸)→<町営「いきいきの里にて昼食」→(極楽寺跡)→(斑鳩神社)→中宮寺→法隆寺(夢殿・大宝蔵院)

約6キロを約6時間、9月とはいえ残暑ことのほか厳しい中、観光協会より5名のガイドさんの適時、適所での熱心な案内を聞きながら、一人の落伍者もなく皆元気に斑鳩を満喫し、次回の湖東三山巡りでの再会を約しあって4時に散会となりました。

今回も10時の集合時間の30分ほど前から続々と集まり、定刻には全員が揃った。

5名の「斑鳩の里 観光ボランティアの会」のガイドさんも早くから法隆寺駅前に来てくださり自ずと熱がこもる。

法隆寺はあまりにも有名なこともあって誰もが一度は訪れた経験はあるものの、前



法隆寺西院伽藍・中門・五重塔前で記念撮影

回の大阪城と同様、上っ面だけのほんの一部だけしか知らないし、見てもいない。

今回こうして、地元のガイドさんの熱心な説明を聞くにつけ、改めて古代日本の扉を開けた当時の日本人の息吹が彷彿とし、



その気宇の壮大なことに参加者一同、悉く「感動一入」といったところでした。

以上のような感動的な「歴史・史蹟の再発見」体験が楽しめる活動を今後とも続けてゆきたいと思っておりますので、どうぞ幅広いみつわ会会員の皆様の御参加、ご支援をよろしくお願いいたします。

入会ご希望の方は井関、村田まで申し込みください。



「中宮寺」俗に**半獅思惟像**と呼ばれる国宝のご本尊。スフィンクス、モナリザと並びこの仏様は「世界の三微笑像」と称賛されているとの説明に皆納得顔。

私の文学碑めぐり

私たち何心なく街を歩いている時、ふと目につくことがある。自然石に文字が書かれている。好奇心によく見ると碑に文章と名前が記されており文学碑、記念碑、顕彰碑その他がある。

文学碑に興味があっても大阪には何があるか、二三見た覚えがあった様な気がして興味を持ち探してみようと思っていた。

或る日、新聞に大阪市〇〇〇〇文化振興課名で、このたび建設中の文学碑が出来上がり一応のめどがついたので案内書を発行する。但し、一般市販はしない。希望者は送料を同封して注文されたいとのことであった。

早速それに従って注文した。送られてきたのは表記に大阪市文学碑（紺地に金文字で書かれている）巻頭に「大阪にゆかりのある文学者の生没の地や、文学作品の重要舞台となった場所が多くあります、云々。昭和 54 年度から現在までに（平成 5 年）15 の文学碑を建ててきました。・・・」

以上のいきさつにより案内書？をガイドブックとして私が尋ね歩いた一部を記す。尚、文中の『 』は、碑に刻まれた文字の一部。

1. 去る年の秋、私は中之島 3 丁目にある大阪市情報文化センター（現在は大手前）での講演を聞きに行った帰り、中之島の遊歩道を歩いていると傍らに**水上滝太郎**の碑が立っていた。それには、小説「大阪の宿」の文章の一説が書かれている。氏は東京の人であるが大阪の会社に勤務していた時の作品だとのことである。
『三田は変に寂しかった。欄干に近く遙々と見渡せる澄み渡った星空のもと

伊東 善次

を、静かに下る川船の艫の音がぎいと冴えて聞こえて消えて行く』しみじみとした作品であると評されている。私も同じように思い感じ入った。

2. 中之島より南へ 1.5km 位に靱公園（西区）がある。その一角に**梶井基次郎**の碑がある。檸檬（れもん）は有名。京都の街を歩いていると果物店を見て感想を書いたものであると記憶している。

氏は大阪西区土佐堀で生まれ 31 才で死去している。川端康成と親交があったとある。『びーどろと言う色硝子で鯛や花を打ち出してあるおはじきが好きになる』檸檬より。

靱公園は大戦で町の大半が焼け、後に進駐軍の飛行場となったが、その後公園として蘇り花壇ありテニスコートあり市民の憩いの場として美しい姿に変わり利用されている。碑は西端にひっそりと木に囲まれている。彼の死後、作品は高く評価されている。

3. 阪急電車の中津駅より北へ JR 貨物線に沿って行くと中津公園がある。この近くで**森本 薫**が明治 45 年に生まれている。彼の作品に有名なものの一つ「女の一生」がある。北村一夫、杉村春子出演の文学座公演を覚えている。



森本 薫の文学碑

『誰が選んでくれたのでもない。自分で選んで歩き出した道ですもの』

この碑を見て、在りし日の名女優杉村の面影が浮かんでくる。少女時代より老人に至るまでを見事に演じている。作者絶筆の作品である。

4. 天王寺区夕陽丘町にある口縄坂(天王寺七坂の一つ) に碑がある**織田作之助**は天王寺区上汐町生れ(大正 2 年) 高津中学より三高に進んだ。同人誌で夫婦善哉を発表する。(昭和 15 年) 然し、仕事に忙殺され昭和 22 年胸の病で急死した。(35 才)

碑文。『口縄坂は寒々と木が枯れて白い風が走っていた。私は石段を降りて行きながらもうこの坂を登り降りすることもあるまいと思った』(木の都の一節)

氏は東京で急死するが、大阪的、庶民的、人情的と共感できる作家だと思われる。(尚、法善寺横丁にも碑があるが、昨年の火事以降は見えていない) 若くして亡くなり惜しまれてならない。

5. 植村宗一は明治 24 年南区生れ、31 才の時に植村の植の字を二字にして直木とし年令の三十一を用い「直木三十一」のペンネームで執筆、以後一字ずつふやし三十五でとめた。

南区安堂寺二丁目に文学碑がある。昭和 10 年直木賞が設けられ大衆文芸の作家に贈られている。名言『芸術は短く貧乏は長し』と。

碑文『「きつと なせる 市蔵」「なせる」大久保市蔵はそういつてうなずくと吉之助の手を握った。軽輩のすべては同じ心で磯浜を、桜島を眺めていた』「南国太平記」よりの一節。

【エピソード】 33 才の時ある仲居に「みとみはんて芸者はんだすか」と聞かれ、これは具合が悪い、それに散々に通じるので改名しよう、三十四、いや待てよ、みとよてな芸者がいるかも知れん、それにミトーシはナオキに掛かるというので一つ飛ばして三十五に。

大阪市で作られた文学碑は 15 あり、大阪にゆかりのある文学者の生没地や作品の主要舞台となった場所が多くあります。大阪市では大阪にゆかりのある文学者や文学作品を顕彰するため、文学碑建立委員会の選定、調査に基づいて昭和 54 年度から文学碑の建立を進め、現在までに 15 の文学碑を建ててきた。

文学碑名と所在

1. 森本薫(北区中津)
2. 三好達治(中之島公園内)
3. 水上滝太郎(中之島三丁目)
4. 梶根基次郎(靱公園内)
5. 宇野浩二(中央区中大江公園)
6. 百田宗治(西区新町)
7. 直木三十五(中央区安堂寺町二)
8. 武田麟太郎(中央区上本町西四)
9. 薄田泣菫(上本町西四)
10. 谷崎潤一郎(国立文楽劇場西)
11. 折口信夫(浪速区敷津町)
12. 織田作之助(天王寺夕陽丘)
13. 林芙美子(天王寺美術館南側)
14. 伊東静夫(阿倍野区松虫)
15. 川端康成(住吉大社内)

以上、15 の内、5 人の方について私の感じたものを記しました。明治、大正、昭和にかけ大阪を舞台に関係の深い先人文学者を偲んで足を運び、その碑より故人の作品を通じて大いに感銘する所がありましたので、茲にその一部を記した次第です。気楽に一度尋ねてみては如何でしょうか。

私の趣味と生活

「手をつなぎつくる豊かなうみ、みらい」をテーマに県西部の浜田市にて「第23回全国豊かな海づくり大会」が10月5日両陛下をお迎えして開催されました。山陰では珍しく連日澄み渡った好天に恵まれ、真青な空・海と鏡のような湖面、県下はほのぼのとした祝福歓迎ムード一色に彩られた4日間でした。

さて、私は30年程前、大山崎の妙喜庵を訪れました。利久ゆかりの国宝茶室待庵の閑寂な侘びの境地にも堪能しましたが、もう一つ控間屏風に目を奪われました。数枚の短冊や色紙の墨の鮮やかな筆致、連綿の美しさに感動しました。それも80才を超えた老婆が書かれたといういかにも枯れた風情に感銘を受けました。その時私もやってみようと思いついて以来20数年。今頃はいささか重荷と思うこと屢々ですが、継続は力なりと我身に鞭打ちつゝ毎月条幅、半紙、仮名、実用書、ペン習字、墨画等10点の検定書の提出を続けています。1ヶ月が追われ追われであつという間に過ぎてしまいます。市美術展等には全紙に挑戦しています。その内私でも私なりの書が書けるようになるだろうと微かな望みを抱き頑張っています。

去る9月21日は京都宝ヶ池の国立京都国際会館に於ける日本習字の式典に参加しました。広大な庭園内に聳え建ち誇るような建物に一瞬異様な感さえ致しました。京都は生憎の雨でしたが曼殊院、詩仙堂、金福寺等社寺を観光し心洗われる思いでした。京都はいつ行っても美しい所と思います。

今春には清水寺奥之院御本尊ご開帳の縁もあり、清水寺や円山公園の素晴らしい夜

井上 元子

桜を、賀茂川宇治川沿いの桜並木、平等院、醍醐寺等古都の行く先々の美しき桜に酔いしれました。紅葉の頃はこれまた天下一、三千院、嵐山、東福寺、永観堂…まだまだ名所は尽きず何回でも訪れたい所です。

私は山野草も好きで沢山植えています。四季折々可憐な花をつけ季節の移ろいを教えてくれます。木槿や芙蓉も終わり、今は藤袴、吾亦紅、秋明菊、秋丁字、水引や吹上菊、友禅菊等々心和ませてくれます。

来春3月27日から全国椿サミットが松江市にて催されます。椿は口切りに生ける高貴な花。美しかった紅葉がやがて地面に散り敷く頃、また柚の実が黄色に色づく頃、茶の湯では炉を開き茶室の情趣は一新されます。そして茶花の王座は椿、白玉、加茂本阿弥、曙、初嵐、太郎庵、妙連寺等春先まで君臨します。椿の種類はとて多くサミット開催が今から楽しみです。又サミットの片隅でお手伝いをしようと息込んでいます。

秋もたけなわとなり茶文化も高揚し恒例の松江城大茶会も数日後になりました。二の丸公園には九流派の趣向を凝らした野立



席のテントが所狭しと建てられ、その日を待つのみ佇まいとなっています。師走の頃まで行事に追われますが、ささやかな楽しみを見出し、生甲斐として日々健康で過ごしたいと思っています。

出会い 思い出

10月6日朝、NHKテレビで瀬戸内寂聴さんが映っていたので何かと見ると「読書のすすめ」というテーマの出演であった。寂聴さんは「人生は出会いである」と。人との出会い、本との出会い、絵との出会い、音楽との出会い等と。特に本との出会いは自分の心を広く大きく太く前進するよう育てるものだ。

本の選び方は、目次を見て一つ取り出しそのページを拾い読みして読んでみたいと思うものを買うのが良いとのことであった。

私の好きなものに書があります。中学は中野南風先生、高校は米田玉泉先生（故人）との出会い、大学の書道部の先輩との出会い、会社では川上景年先生との出会いがあった。先生（大道書学院会長）は本年4月28日に大往生された。

入社（昭和36年）した時、書道部があり入部、先生が月2回？会社に来て教えていただいていた。内勤2年は参加していた



が、営業へ出てから忙しくなり欠席勝ちになりその内筆を持たなくなっていた。

そんな時、大学の先輩が日展入選したと上京、上野都美術館へ同行した。道中「字書いてるか」と言われ「やめてる」と言

伊藤 陞

うと「書いたらどうや」とすすめられ、改めて先生の自宅へお伺いし弟子入りさせてもらった。先生は毎週来ても良いとのことであったが（月謝参千円、月給二万円弱の頃）練習できるのは土曜日から日曜日位しかなく法帖を一生懸命に臨書し、月1回数百枚（半紙書、半切書）を大風呂敷に包んで錦糸町の江東営業所社宅から中野区弥生町まで電車バスを乗り継いで1時間半、先生宅を訪問。見て頂いたが先生はパラパラめくって2分、ふむと一言、後は沈黙、これが4年続いた。本当に苦しかった。くそっと思いつつ勉強した。

この間、大道書道院展（上野都美術館）大道書学院同人展に出品していたが昭和45年3月、大道書学院同人展が銀座三越4階画廊新設祝第1回展として開催され出品した「以和為貴」により突然師範の免状を頂戴した。狐につままれた様であった。この作品は月刊書壇5号昭和45年5月25日発行に掲載されている。

翌46年3月、大阪転勤となり出発4日前先生宅に挨拶訪問した時、先生は「餞別は何が良いか」と尋ねられ、看板を書いて下さいとお願いした所、快く承諾して下さい。二日後に取りに来なさいとのことでお伺いすると、まだ墨が乾いてない状態の看板「景監書学院」縦55横12厚さ2cmと扇子（龍祥鳳舞等）3本を戴いた。

またこの時、これまでの臨書作品に1回も朱を入れられなか（添削なし）ったのは

とお尋ねした所、先生は「私は教師（玉川大教授）である。今は月にロケットが行く時代である。アポロが月に到着したのは方向が正しいからで、違っていれば宇宙の彼方へ消えていた。君の向っている方向が違っていれば修正するのが僕の役目で、正しい方向へ進んでいるから何も言わなかった」と。

感動と晴れた気分で納得し辞去した。この事が今でも大きな励みとなっている。又この時先生は「亜流はいかん。古典を勉強し

て自分の作品を仕上げなさい」と言って下さった。

昨年2月11日、先生の白寿の祝が京王プラザホテルであり十数年振りにお元気な先生にお目にかかり、これを期に十数年振りに筆を持ち、今年2月の大道展（上野都美術館）、5月の選抜大道展（銀座セントラル美術館）に出品させて頂いた。

今は少しずつ筆紙墨硯の心に耳を傾け、よく観察し調和できるよう心掛けています。

近 況 報 告

阪神淡路大震災より早や8年9ヶ月が経ちました。今の住居は、震災復興住宅（市営住宅）ですが、半分近くの高齢者が住み、また一人暮らしの人がその半分以上も住んでいます。（4棟400戸）

これからの高齢化社会に向けてどう対処していくか問題が多いようです。私自身も、もう高齢者に属していますが、まだまだこの団地では、若い方に入っているようです。

私も震災前から母の介護を7年間してきましたが、母がなくなってからは、地元でのボランティアをと、デイサービスに月2、3回お手伝いに行ったり、同じ団地の一人暮らしのお年寄りを医院に車椅子で連れて行ったり、月に1回70歳以上のお年寄りを友愛訪問して「お元気ですか」と声かけ運動をしています。

また、コミュニケーションを図る為、手作教室を開いたりして一人一人がふれあい

高木 佐枝子

の場が持てるようにと頑張っています。

私自身も今年4月より水墨画を習い始めましたが、水墨画は墨の香り、色には日本人の心を引きつける雅趣があるし、墨絵は私たちに一番親しみのある絵だと思いましたので始めましたが、中々難しいので四苦八苦しているところです。

墨（濃墨・中墨・淡墨）の作り方、筆遣いが難しいです。四君子（竹、蘭、菊、梅）を今習っているところです。 これからも練習一筋に頑張っ



て行きたいと思っています。
最後になりましたが、みつわ会の皆様には、益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

70の手習い

一人住まいになって9年、家中のガラクタを少しずつ整理していたら、千字文と記した漢字の手本が出て来た。

今から1800年位前中国で王羲之と言う人が書いた文字を、武帝が千字の韻文を作れと命じ、以後500年位の間に十数人の人が、四言250句の漢詩集を作ったようだ。このうちの1種が、285年百済からの渡来人王仁さんが論語10巻と千字文を時の朝廷に献じ、日本の漢字の始まりになったとか。

数年前枚方の方に、カメラを下げて、スクーターでうろついていたら王仁公園に当たった、王仁さんの墓があるらしい。

今の書の手本になったのは王仁さんがもたらしたものと違う周興嗣という人の作だとか、折角だから小学校以来年賀状を書くだけだった墨字を70の手習いで始めることにした。書き出しは「天地玄黄、宇宙洪荒」である。古い寺を尋ねたら、時折大文



加藤明克

字で書かれたのを見たことがあったが出所が千字文と判った。

大き目の小筆を求め、書き始めたら、横に広がり、縦に長くなり、縮み、丸くなり、でとても見られたものではない。そうこうして5年位経ったかな。天気の良い日に書いているが、続けて千字はとても書けない。1回に半紙1枚96字書くのがやっとだ。途中で一休みしたら形が変わってしまう。困ったものだ。或る時書道展を見に行ってみた。驚いたことに、楷書の出品は一枚もなく、殆ど草書なので何を書いたのか丸で判らない。大きな一枚の紙に大筆で書き投げたもの、絵の書き損じかと思った。楷書は子供の書くものらしい。

そうこうして5年位になった、書道塾に行ったらと思うが、こんなもの初めて書いた人も、書道家も初めて書いたときは、うまく行く訳はないと思うから、毎日日曜だし、3年先か5年先か、少しは見れる様になるかなと考えている。その内幽明異にする日が来るから、それまでに少し許り増しになったら良しとしたい。

小生の近況報告

今般、関西みつわ会より原稿の依頼を受けましたので、私事で恐縮ですが近況をご報告させて頂く前に、藤村富美男、別当薫が活躍した時代から阪神タイガースを応援しています一人として18年ぶりの優勝を、関西みつわ会の阪神タイガースファンの方々と心から祝福したいと思います。

孫（拓馬3歳7ヶ月）は安藤優也選手の誕生日と同日ですので特に力を入れて応援

中村 長尚

していますが、拙宅に泊まりに来ますと「フレ、フレ阪神タイガース」と歌ってくれます。さて、退職しまして早、8年目を迎え走馬灯のごとく過ぎ去る年月の速さに、今更ながら驚いています今日この頃です。

現在は、数年前から週3回マンションの管理の仕事に従事する傍ら、フリーテニス（注）を通じて地域の方々と交友を暖めています。（注）このフリーテニスは尼崎市内

では特に盛んで、毎日どこかの公園で行われており、市内の大会も年2回開催されています。



コートは横4m、縦7m、ボールは軟式テニスのそれを小さくしたもの、ラケットは卓球のそれを若干大きくしたもの、ネットの高さは46cmです。簡単に申しますと、コートは硬式テニスのサービスラインを小さくしたものと考えていただければよいかと思います。

また、趣味の一つとして2年前からパソコン教室に通い始め、目下応用編にチャレンジしていますが、エクセル、ワードの内容が幅広く、奥深いため記憶力の低下を痛感しながら、何とか2級程度の資格を取得

すべく努めたいと思います。

インターネットより、市内の毎月のゴミ収集の日程表等を近所の方々に配布しながら、ささやかなボランティア活動を行っています。

旅行は毎年大学時代の友人10人と（今年11月金沢に旅行の予定）、高校時代の友人とは同窓会という形で旅行（今年4月岡山県湯原温泉で開催）しています。

唯、悲しいことですが、ここ数年毎年脳梗塞、糖尿病等で天国に旅立ち、現在も心臓病、緑内障等で通院している友人を見ますと、スポーツ、旅行するにしましても、健康が第一ですので、残された余生をお互いに悔いが残らないよう過ごしたいものです。

スローライフ

組織から開放され、ストレスから開放され煩わしい人間関係もなく、こんなに毎日が楽しく過ごせた最良の日々は、過去にはなかったのではなからうか。

失業した翌日から気分が良いことこの上ない。毎日が日曜日というけれど、本当に実感できた。1ヶ月はブラブラしていたかな？

しかし、さすがこのままではいけないと思い、一日のメリハリをつけようと、朝歩きを実行することにした。早朝、約1時間程かけて近くの公園にある池の周囲をウォーキングするのである。地面が本来の土なので、アスファルト慣れした足には何とも言えない心地好さを感じた。左回り、右回りと方向を変えて歩くと、目に入る景色が

窪崎 嗣男

まるで変わる。同じ場所なのに面白い。最初はただ歩くだけだったので単調であった。

そのうち目が、花や鳥の姿に移るようになると、季節の変化に自然が示す様子を観



察するようになった。そうすると名前の知らない花や鳥がなんと沢山あることか、自分の知識の低さを再認識させられた。

早速、図鑑やCDを購入、外で見たり聞いたりしたものと同じものを見つけると楽しくなってきた。特に興味を持ったのは、道端にひっそりと咲く可愛らしい小さな雑草の花であった。街中の花屋にあるどの花よりもいとおしく感じた。もう一つ、つい

でにと思い、机の中から百人一首のカルタを毎日一枚ずつ持ち、諳んじながら歌人になったつもりで、歌に読まれた情景を頭に描きながら歩いていると頭の体操にもなった。

他には毎週1回プールに行った。これは現役時代からの取組みですが、約1kmは必ず泳いで帰るといふもの。そして泳いだ日は必ずアルコールを抜くことを常にした。

幼い頃、両親に連れられて綺麗な川で泳ぎ始めたのがきっかけで、今でもスポーツの中では一番好きな種目、年を取っても続

けていくつもり。アルコールと言えば、現役時代ほとんど毎日飲み屋に通っていたものだが、今では家で缶ビール2本（銘柄はエビスに限定）のみ！

信じられない変りようである。憂さを晴らす材料が減った分、飲む量も減ったのでしょうか。でも体には良いことかな、体重も現状維持できているし。

長い人生の間に、こういったぜいたくと思える時間が、たとえ短くても、もらえたことに今はただ感謝。感謝あるのみです。

旅行同行会について

本年度、定例支部総会の席上で＜旅行同好会＞をスタートさせたいと提案いたしました。今年度7月に新しくスタートを切った【関西史蹟散策会】と合流して行うことに致しました。



法隆寺見学の様子

関西支部幹事会

単に旅行のみを目的にするより、むしろ史蹟探求や名所見学に活動の主眼を置き、幅広く、誰にも参加しやすい同好会として合流致しますので、よろしく願い申し上げます。

【関西史蹟散策会】は、すでに3回の開催を重ねて、幸いにも毎回25名を越す会員の参加があり活動が定着しつつあります。

皆様の積極的なご参加と一層のご支援をお願い申し上げます。

入会ご希望の方は井関、村田までお申し込みください。

編集後記

厳寒の季節を迎え、皆様方にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

今年度から支部会費制を導入しました所、多数の皆様方のご協力を得ましたこと、心より御礼申し上げます。

今後とも、より一層魅力あるみつわ会運営に心掛けてまいりますので、会員の皆様方の積極的なご意見、ご提案をよろしくお願い申し上げます。

どうぞ、皆様ご家族お揃いで良いお正月をお迎え下さい。

関西支部幹事一同